

【参考文献】

- ・『大蔵省印刷局百年史』第1巻～第3巻 大蔵省印刷局 1971～1974
- ・お札と切手の博物館 平成25年度特別展
「切手と事件と舞台裏 ～こうしてぼくらは生まれた～」解説書 2013
- ・お札と切手の博物館 令和3年度夏の特集展
「切手の国の探検隊 150年 知られざる切手ヒストリー」解説シート 2021
- ・『日本切手百科事典』日本郵趣協会 1974
- ・内藤陽介『一億総切手狂の時代 昭和元禄切手絵巻 1966-1971』
日本郵趣出版 2006
- ・内藤陽介『切手百撰 昭和戦後』平凡社 2011
- ・田辺龍太『切手もの知りBOOK』切手の博物館 2019
- ・『さくら日本切手カタログ2026』日本郵趣出版 2025
- ・『ビジュアル日本切手カタログVol.1 記念切手編1894-2000』
日本郵趣協会 2012

【インターネット】

- ・日本郵便株式会社ホームページ



令和7年度第1回特別展

2025年
7月23日(水)～8月31日(日)

発行日 令和7年7月23日

編集・発行 独立行政法人国立印刷局 お札と切手の博物館
〒114-0002 東京都北区王子1丁目6-1
TEL 03-5390-5194

本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

令和7年度第1回特別展

切手の
ひみつ
研究所

解説書

わざ び ち
技・美・知を
さぐ 探る!

独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館
Banknote and Postage Stamp Museum

切手を知る7つのキーワード

【1】切手ならではの技術①目打ち

切手を切り取るための小さな穴。切り取ると、ギザギザの形になる。枠として、切手のデザインを美しく見せる効果もある。シール式の切手でも、ギザギザのデザインが使われている。

【2】切手ならではの技術②のり

切手の裏には、手紙に貼り付けるためののりがつけられており、水にぬらすとくっつく。シール式の切手も増えている。

【3】1840年イギリス生まれの185歳！

切手は、近代的な郵便の仕組みを考えたイギリス人、ローランド・ヒル(1795-1879)によって生み出された。ちなみに、日本の切手は明治4(1871)年生まれで154歳。「日本近代郵便の父」前島密は生誕190年！

【4】証明

手紙に切手を貼れば、「前もって郵便料金を支払った」という証明になる。

【5】重要な印刷物、小さな外交官

郵便料金分の価値をもつ切手。よく使われる額面や高い額面の切手には、偽造を防ぐ技術が使われている。切手は世界各国に届き、多くの人の目にふれることから「小さな外交官」と呼ばれることもある。

【6】小さな芸術品、コレクターアイテム

切手の小さな面積の中には、さまざまな技術が使われている。細かなデザインまで美しく再現された切手は、「小さな芸術品」「紙の宝石」とも呼ばれる。古くからコレクターアイテムとしても認められている。

【7】切手からのメッセージ

切手は、手紙に貼る「証明」というだけではなく、デザイン(テーマ)を通じてメッセージを伝えている。お祝いの気持ちを表したり、国の一大行事を広めて記録したり、災害の復興などに必要な寄付金を集めたりと、様々な目的に応じて、切手は役割やデザインを変えている。

切手とは？



普通切手 1円 平成27(2015)年



世界初の切手
(ペニー・ブラック)
イギリス
1840年



日本初の切手
明治4(1871)年



日本切手の美を代表する記念切手
きつて じゅんしゅうかん れい わ
切手趣味週間 令和5(2023)年

1 切手の種類

目的やテーマによってさまざまな種類の切手が発行されている。

種類	特徴
普通切手	いつでも発行されている切手
慶事用切手(普通切手)	お祝い事のお知らせに使う切手
弔事用切手(普通切手)	葬儀のお知らせに使う切手
年賀切手	干支を題材にした新年のあいさつ状に使う切手
特殊(記念)切手	記念行事やイベント、世界遺産や動物、工芸品などを題材にした切手
グリーティング切手	春夏秋冬の風景やキャラクターを題材にした季節のあいさつ状などに使う切手
ふるさと切手	各地の景色や名産品などを題材にした切手

2 切手の形

世界初の切手、ペニー・ブラックの形は、タテ24ミリ×ヨコ21ミリ(比率1.2:1)の長方形。これは、現在も世界の多くの国が普通切手に使う基本の形となっている。

ちなみに、日本の普通切手のサイズはタテ26ミリ×ヨコ22ミリ。一方、記念切手には、デザインに合わせてさまざまな形、サイズが使われる。



現在の日本の普通切手
16円 令和6(2024)年

3 切手の国名

世界192か国が加盟する万国郵便連合(国連の専門機関)の取り決めで、切手にはローマ字の国名を入れなければならない。日本は「NIPPON」だが、切手の誕生国イギリスでは、国名は入れずに国王の横顔のシルエットマークを入れている。



イギリスの記念切手
チャールズ3世戴冠
無額面 2023年



日本の記念切手
2025年日本国際博覧会
(大阪・関西万博)(寄付金付)
84+10円 令和6(2024)年

1 原画を忠実に再現する「特色」

わざ
技の
ひみつ

切手の原画は、日本郵便株式会社の切手デザイナーが作る。この原画をいかに忠実に再現するかが腕の見せ所だ。それには「色」が重要なポイントとなる。

印刷に使う版面の状態やデザイナーの意図に合わせるため、印刷現場では、細かな色の調整が必要になる。そのため、印刷局のベテラン職員が技術力と経験を活かした職人技で特別に設計した色(特色)のインキを使う。

切手のシートには、印刷に使った色や印刷した順番が分かる「カラーマーク」のほか、切手の製造元(銘版)が必ず印刷されている。



赤色(特色)の
バリエーションの例
(左)黄味を加えた赤 (中央)赤
(右)青味を加えた赤

2 重ね刷りの美

切手は、色ごとに印刷用の版面を作り、専用の機械で1色ずつ順番に刷り重ねる。

印刷用の紙には、あらかじめのりがつけられたロール紙を使う。印刷の最後に、目打ちを開ける。



印刷用の版面(シリンダー)
例えば6色で印刷する場合、
シリンダーを6つ作る。



切手印刷機



郵便創業150年切手帳
(令和3年)のカラーマーク



6色の重ね刷り工程
郵便創業150年切手帳(通常版)
500円 令和3(2021)年

研究員の
MISSION

目打ちと重ね刷りスタンプを
完成させて「特別研究員証」
をGet!



スタンプ博士

3 切手の印刷方式と表現のちがい

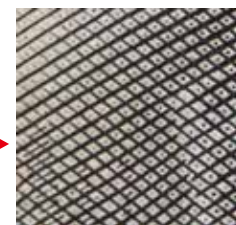
日本の切手は、印刷局と国内外の印刷会社で製造されている。他社では、一般的な印刷物にもよく見られるオフセット印刷を使っているが、印刷局製の切手は、特色によるグラビア印刷や凹版印刷を使う。

凹版印刷

はんこ(凸版)の逆で、彫刻した線の凹みにインキを詰めて印刷する。インキが紙の上で盛り上がり、立体的で重厚感のある仕上がりになる。

最近では、「切手趣味週間」等の一部の特殊(記念)切手に使われている。

版面の彫刻には手間がかかるが、偽造防止効果が高く、お札の印刷にも使われている。

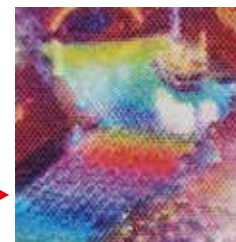
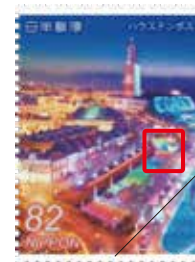


第1次国宝シリーズ第2集
15円 昭和43(1968)年

グラビア印刷

凹版印刷の一種で、「セル」という規則的なくぼみの大きさや深さを変えることで色の濃淡を表現する。

インキはつややかで厚みがあり、鮮やかで深みのある色で図柄を再現できる。

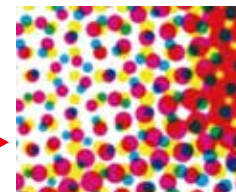


日本の夜景シリーズ第5集
82円 平成30(2018)年

オフセット(平版)印刷

「網点」という点の大小と配置によって色彩や濃淡を表現する。

細かい図柄を再現でき、大量印刷に向いていることから、一般的な印刷物にもよく使われる。



動物愛護週間制定
60周年記念
50+5円 平成21(2009)年

美のひみつ

特殊(記念)切手の中には、長年にわたって日本を代表する絵画、工芸作品を取り上げてきたシリーズがある。これらの切手たちを一同に集めると、そこは日本の美を凝縮した「美術館」となる。

「切手趣味週間」切手 昭和22(1947)年～

切手趣味週間とは、切手の芸術性と、切手収集の趣味とを広めるために設定された、4月20日(郵政記念日)を含む1週間。これを記念し、毎年切手が発行されている。歴代の切手は、「日本切手の顔」とも言える代表格が多い。



東洲斎写楽画「市川蝦蔵」
切手趣味週間
10円 昭和31(1956)年

「国際文通週間」切手 昭和33(1958)年～

国際文通週間とは、世界の人々が文通によって文化の交流に努め、世界平和に貢献しようという目的で設定された、10月9日(万国郵便連合創設記念日)を含む1週間。そのキャンペーンの一環として、毎年、浮世絵等の絵画作品をモチーフとした切手が発行されている。



葛飾北斎画「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」国際文通週間
40円 昭和38(1963)年

「国宝シリーズ」切手 昭和42(1967)年～

日本のさまざまな文化を象徴する国宝を国の内外に紹介する切手。絵画、彫刻、工芸品、建築などが取り上げられ、厳かな雰囲気や細部のツヤ感まで、凹版印刷とグラビア印刷で、精巧に再現されている。



東照宮陽明門
第2次国宝シリーズ第8集
100円 昭和53(1978)年

グラビア+凹版印刷

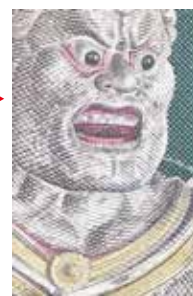
印刷局の技の真骨頂ともいえる凹版印刷。印刷用版面(原版)は、工芸官と呼ばれる熟練の専門職員が手彫りで作る。その細かさは、1ミリの幅に10本以上の線が彫れるほど。

工芸官は、点と線の深さ、大小、太さなどを巧みに使い分け、デザインを立体的に表現する。特に、切手はサイズがとても小さいため、考え抜かれた線や点で、遠近や陰影、質感、量感、色彩感を表現する技が必要となる。

こうした凹版に、艶と深みのあるグラビアのカラフルな色を加わることで、芸術的な切手になる。



工芸官がお札の原版を彫刻する様子



重厚感と迫力ある仕上りの凹版印刷
執金剛神立像 第2次国宝シリーズ第1集
100円 昭和51(1976)年



グラビア5色+凹版2色で極彩色の壺を表現
いろえけつばい すちやつぽ どうせんさいりゅうし
色絵月梅園茶壺・唐三彩龍耳瓶
日中国交正常化20年記念
62円 平成4(1992)年



東京タワーの表現のちがい
(左)凹版1色(右)グラビア5色+凹版1色
日本の建築シリーズ第2集
82円 平成29(2017)年



わざ 技と 美の ひみつ

切手のプロが選ぶこの1枚

国立印刷局で切手の印刷を長年経験したプロが、これまで発行された切手の中から一推しの切手を紹介！

金色の光沢をいかした 屏風絵の再現！

金色インキの光沢が優れており、屏風絵を忠実に再現している。
しかも、風神と雷神は、2人の工芸官がそれぞれの個性を活かして彫刻しており、技術的にも美的にも価値がある。



「風神雷神図屏風」
切手趣味週間 82円
平成30(2018)年

グラビア印刷と凹版印刷 の掛け合わせによる忠実な再現！

凹版の細かい画線が多く、刷り合わせに苦労したが、昆虫の触角や足、羽の模様などが忠実に再現され、図鑑に引けを取らない仕上がりとなった。



ムカシトンボ、ルリボシカミキリ
昆虫シリーズ第1集 60円 昭和61(1986)年

凹版で鷹の羽の立体感まで繊細に表現されている。
インキの黒色を強くすると、1色目に使っている黄色が沈んでしまうため、明るい表現を出すのに苦労した思い出がある。



「松に鷹図」
普通切手 1000円
平成8(1996)年

苦労とやりがい

1枚のシート(4種類のデザイン)に、グラビア5色と凹版4色という日本切手史上最も多くの色を使った切手。
色の区分けや混色などを細かく調整する印刷作業は、30年切手に携わってきた中でも最も難しいものだった。



前島密と電切手
郵便切手の歩みシリーズ第1集 80円 平成6(1994)年

特色8色を使った鮮やかな表現

時代が移り変わる節目に発行された切手。グラビア8色で皇室にまつわる動植物の文様を鮮やかに、優雅に表現している。



鶴亀文様、菊花文様 切手のカラーマーク
天皇陛下御即位三十年記念 82円 平成31(2019)年

初めて和紙のシート式用紙を使ったため、機械での取り扱いに苦労した。和紙が黄色味を帯びているため、印刷する色まで黄色く見えないよう調整するのに、とても苦労した。



「見返り美人」と「月に雁」
郵便創業150年記念切手帳(通常版) 500円
令和3(2021)年

印刷局職員のプライド

グラビア印刷と凹版印刷の長所を活かした印刷局独自の技術で「龍虎図」を表現した切手。淡い色のグラデーションが美しいだけでなく、力強い画線によって芸術性の高い仕上がりとなっている。
印刷局の創立100周年を記念したこの切手には、当時の職員のプライドと技術力が集約されている。



「龍虎図」
政府印刷事業百年記念 15円 昭和46(1971)年

関東大震災と切手

大正12(1923)年に起きた関東大震災では、お札や切手を作る印刷局の工場が倒壊、印刷機が焼失するなど、大きな被害を受けた。お札を保管した金庫は無事だったが、切手の倉庫が全焼し、全国に補充するための切手がすべて焼失してしまった。通信手段が限られていた当時、何よりも製造が急がれたのは、切手だった。

切手は、大阪の印刷会社が製造することになったが、当時は、目打ちを開ける機械も、のりを塗る機械も印刷局以外にはなかったため、省略された。目打ちの代わりとして、切り取り用の点線が印刷された。こうした簡単な作りが、非常時の苦労を物語っている。



震災で焼け固まった切手



目打ちの代わりに点線が印刷された切手
震災切手 5銭 大正12(1923)年

貯金と切手

明治期や昭和期には、戦争の費用を集めるため、子供のわずかなお小遣でも貯金ができるように「切手貯金」の制度が登場した。

切手貯金は、小額の切手を集めて専用の台紙に貼り、一定以上の額に届くと貯金として扱われた。台紙には、貯金にまつわる格言やデザインが印刷されている。



郵便切手貯金台紙

(左)表紙(右)中面 1銭切手を20枚貼り付けたもの(20銭の貯金)
明治34(1901)年



郵便切手貯金台紙
10銭 昭和16(1941)年



集めなくなる
レトロな切手



切手ブーム

1950～60年代には、空前の切手ブームが起きた。このころには、最新式の印刷機で、時事や動植物などをテーマに、カラフルで魅力あるデザインの切手が多数登場するようになった。同じころ、お菓子のおまけに国内外の切手が使われたことをきっかけに、切手ブームが起こった。このブームは、新たな印刷技術を使った芸術性の高い切手の登場を後押ししたといえる。



初の4色刷り切手
第15回国際商業会議所
総会記念 10円
昭和30(1955)年



カラフルな凹版印刷の切手
自然公園の日制定記念 10円
昭和34(1959)年



皇太子殿下御成婚記念
30円 昭和34(1959)年



花シリーズ
すいせん 10円
昭和36(1961)年



東海道新幹線開通記念
10円 昭和39(1964)年

日本製の外国切手

切手ブームに前後して、今からちょうど70年前、日本製の外国切手が続々と誕生していた。

戦後、日本の経済は急成長し、それまで使われていた100円札がコインに代わり、高額な5000円札や10000円札が使われるようになった。

お札の作り手である印刷局は、製造量が減ったお札に代わって、高度な印刷技術を活かした切手の名手として世界に名が知られるようになった。

印刷局は、これまで国連と、世界の19の国と地域の1000種類以上の切手を作っている。



日本の印刷局が製造した外国切手
(左)台湾 1958年 (右)国連 1998年

